最後の「天朝」

上

毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮

沈 志 華

朱 建 栄……訳

岩波書店

最後の「天朝」

沈志華
朱建栄……訳

上

毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮

岩波書店

沈 志 華(しん・しか／Shěn Zhìhuá)
1950年北京生まれ．68年に解放軍入隊(71年まで)．北京石景山発電所，北京電力管理局勤務を経て，79年に中国社会科学院世界史系大学院入学．82年，深圳でビジネスに従事．1992年，民間学術団体の中国史学会東方歴史研究センター(後に北京東方歴史学会に改名)を設立，続いて「東方歴史研究出版基金」を創設．中国人民大学，北京大学，香港中文大学，米国ウィルソンセンターなどで客員教授もしくは研究員を歴任した後，2005年，華東師範大学歴史学部の終身教授，同大学冷戦国際史研究センター主任に就任．2016年6月，新設の同大学周辺国家研究院の院長に任命される．専門は冷戦史，ソ連史，中朝関係史，朝鮮戦争など．主要著作は本書下巻巻末の「参考文献」参照．

朱 建 栄(しゅ・けんえい／Zhū Jiànróng)
1957年上海生まれ．81年華東師範大学外国語学部卒業．84年上海国際問題研究所付属大学院修士課程修了．86年来日．92年学習院大学で博士号(政治学)取得．総合研究開発機構，学習院大学の客員研究員などを経て，現在東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部教授．著書に『毛沢東の朝鮮戦争』(岩波現代文庫)，『毛沢東のベトナム戦争』(東京大学出版会)などがある．

最後の「天朝」
毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮　上　　沈 志 華

2016年9月9日　第1刷発行

訳　者　朱建栄(しゅけんえい)

発行者　岡本 厚

発行所　株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
電話案内 03-5210-4000
http://www.iwanami.co.jp/

印刷・精興社　製本・松岳社

ISBN 978-4-00-023066-7　　Printed in Japan

毛沢東の朝鮮戦争
—中国が鴨緑江を渡るまで—
朱建栄
岩波現代文庫
本体一六〇〇円

天下と天朝の中国史
檀上寛
岩波新書
本体九〇〇円

モスクワと金日成
—冷戦の中の北朝鮮 一九四五—一九六一年—
下斗米伸夫
四六判三五二頁
本体三三〇〇円

朝鮮戦争全史
和田春樹
A5判五四〇〇頁
本体七三〇〇円

キッシンジャー回想録 中国 上・下
ヘンリー・A・キッシンジャー
塚越敏彦 松下文男 横山司 岩瀬彰 中川潔 訳
四六判各三四二頁
本体各三八〇〇円

岩波書店刊
定価は表示価格に消費税が加算されます
2016年9月現在

最後の「天朝」

毛沢東・金日成時代の中国と北朝鮮　上

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

最後的「天朝」——毛沢東，金日成与中朝関係
by 沈志華
Copyright © 2016 by Shen Zhihua

This Japanese edition published 2016
by Iwanami Shoten, Publishers, Tokyo
by arrangement with the author

凡　例

1　本書は沈志華『最後的「天朝」――毛沢東、金日成与中朝関係』（原文中国語簡体字、二〇一六年四月完成）の全訳である。日本語版は他の外国語版（中国語版を含む）にさきがけて世界で初めて刊行される。

2　原文は約五十八万華字に及ぶ。分量が多いので、著者の了解を得て、訳者の判断で翻訳を一部省略した。

3　章と節は基本的に原文に基づいているが、著者の了解を得て、元の第五章を二章（第五、第六章）に分け、節の一部を増やした。また、章、節のタイトルは訳者の判断で日本の読者に分かりやすく改めた。項の小見出し（ゴチック体）は原文にはないが、訳者が内容のまとまりごとに設定した。

4　本文中のパーレン（　）は著者による原注である。キッコー〔　〕は訳注である。長めの訳注は各巻の巻末にまとめた。

5　改行は原文に従ったが、読者の読みやすさを考慮して多めに施した。

6　朝鮮・韓国人とロシア人の人名には初出の箇所にローマ字の綴りを補った。また一部の欧米人、アジア人の人名にも同様の措置を行った。

7　中国の機関、会議などの主な訳語、略語は以下の通りである。
中国共産党→中共、中国共産党第八回全国代表大会→第八回党大会、八全大会、中国共産党第八期中央委員会第三回全体会議→八期三中全会、全国人民代表大会第四期第一回会議→第四期全人代第一回会議

8　国務院各部の名称、役職名は、原則として国務院総理、外交部、外交部長、外交部副部長など中国語の表現のままとした。

9　朝鮮、ソ連の国家機関、会議などの訳語は、外務省、外相、朝鮮労働党大会、ソ連共産党大会、中央委員会総会、中央幹部会などと訳した。

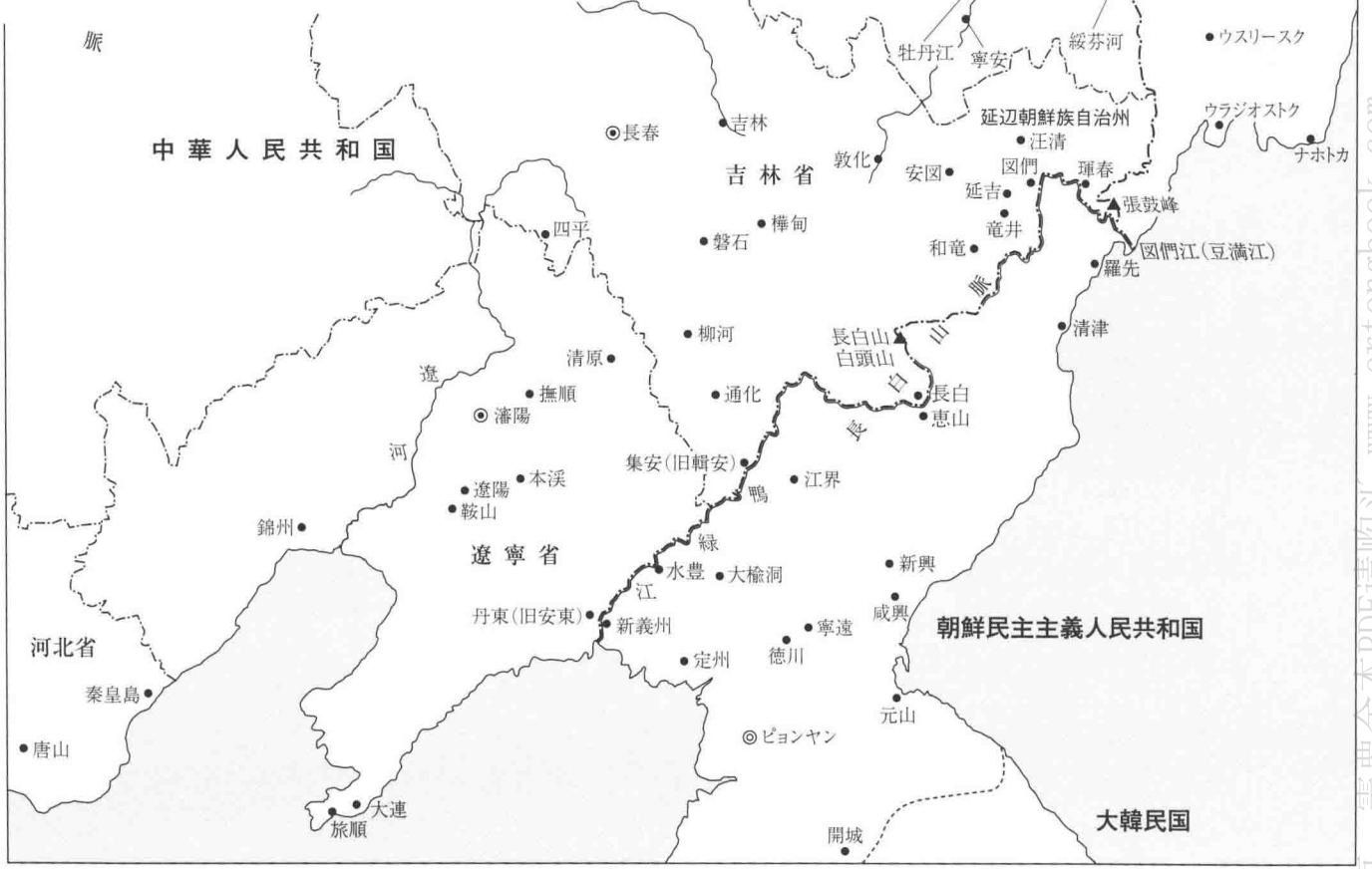
10　中朝関係略年表は訳者が作成した。

11　本書中の写真は全て著者の所蔵である。

中華人民共和国
吉林省
遼寧省
朝鮮民主主義人民共和国
朝鮮半島
延辺朝鮮族自治州
長白朝鮮族自治県
咸鏡北道
両江道
慈江道
咸鏡南道
平安北道
平安南道
黄海北道
黄海南道
遼東半島
日本海
四平
敦化
安図
図們
琿春
磐石
樺甸
延吉
開山屯
和竜
会寧
羅先
図們江(豆満江)
柳河
清原
清津
長白山
白頭山
瀋陽
撫順
通化
長白
普天堡
恵山
遼陽
本渓
鞍山
雲峰
鴨
長津江
集安
緑江
江界
金策
舞水端
水豊
大楡洞
熙川
丹東
新義州
咸興
博川
寧辺
寧遠
定州
安州
徳川
金野
高原
順川
元山
ピョンヤン
大同江
南浦
金剛山

北緯 38 度線
甕津
海州
開城
仁川
ソウル
京畿道
江原道
黄　海
南
漢
江
水原
利川
大韓民国
忠清北道
忠清南道
錦
江
大田
慶尚北道
洛
東
江
浦項
全州
全羅北道
慶尚南道
蔚山
光州
釜山
全羅南道
済州道
済州島
福岡
日本国

ロシア連邦
ブラゴヴェシチェンスク
黒河
アムール川
黒竜江
ハバロフスク
大
興
安
嶺
山
脈
内モンゴル自治区
チチハル
松花江
佳木斯
湯原
依蘭
宝清
虎林
饒河
ウスリー川
黒竜江省
勃利
牡丹江
ハルビン
賓県
尚志(旧珠河県)
ウランホト



试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

目　次

凡　例

プロローグ　歴史に真実を返す……1
「血で結ばれた同盟」は神話(1)　遅れた真相研究(3)　二十一世紀の新しい動き(4)　本書が挑む歴史のパズル(7)　中国公文書利用の現段階(9)　国際的な情報公開の波(11)　中朝関係の背景要因と歴史的特徴(14)

序　章　中朝共産主義者の関係前史――一九二〇年代から一九四五年まで……19

第一節　運命的な対面……21
朝鮮共産党史の時期区分(21)　両国の共産主義者同士の出会い(22)　結党段階の相互支援(24)　中国革命における著名な朝鮮人(26)　中国共産党内の朝鮮人支部(29)　満州での戦いと内紛(32)　中国共産党、満州に目を向ける(33)　コミンテルン決議の衝撃(36)　「中国共産党員」になる(39)　旧満州の革命、最初の高潮を迎える(41)　粛清―退潮―再起(43)　金日成の登場(45)

第二節　日中戦争中の朝鮮人革命家……46
「延安派」幹部の由来(47)　朝鮮義勇隊の変身(49)　ソ連で形成された「パルチザン

派」(52)　リュシコフ事件の波紋(55)　二回のハバロフスク会議(58)　「88旅団」の発足(60)　金日成、頭角を現す(64)　周保中の帰国参戦構想(68)　ソ連軍の旅団解散命令(69)　祖国への道を急ぐ(72)

第一章　即かず離れず——新中国の建国に至るまで(一九四五—一九四九年)……75

第一節　北朝鮮建国と両党関係……75

ソ連の衛星国の誕生(75)　金日成の帰国(78)　朝鮮半島に二つの政権(81)　八路軍の東北進軍(84)　金日成との接触パイプ(86)　朝鮮の中国革命支援(88)　東北の解放と北朝鮮の役割(92)

第二節　「革命」と「民族」の相克……94

民族政策がなかった中国(94)　中国共産党の試行錯誤(98)　朝鮮義勇軍の活躍と改編(102)　「延安派」幹部の帰国(106)　中国の朝鮮人幹部育成(109)　民族自治の模索(112)　延辺の「朝鮮帰属」の暗流(115)　朝鮮人将兵の帰還(119)

第三節　毛沢東のアジア革命の夢……123

流れた「極東情報局」構想(124)　アジア革命の指導権に対する意欲(129)　各国共産党幹部の北京研修(132)　北朝鮮は依然、ソ連の傘下(135)

第二章　朝鮮戦争——朝鮮問題をめぐる主導権の移転(一九四九—一九五三年)……141

第一節　毛沢東と金日成の初対面……142

金日成、民族統一に意欲(142)　モスクワと北京から掛けられたブレーキ(145)　スター

リンが金日成に「ゴーサイン」(148)　「二台の馬車」に乗せられた毛沢東(152)　南進作戦計画(154)　開戦をめぐる中朝首脳会談(156)

第二節　中国人民義勇軍の参戦……158

早期の出兵を望んだ毛沢東(158)　スターリンはなぜ中国の参戦をいやがったか(160)　国際義勇軍結成の提案(164)　一進一退する毛沢東の出兵構想(168)　スターリンと周恩来の「不参戦」合意(172)　毛沢東、ついに参戦を決断(176)　スターリンは再度、空軍出動の約束を食言(179)

第三節　北朝鮮問題の主導権は北京へ……181

軍事指揮権をめぐる綱引き(182)　「中国の同志に統一的指揮権を」(187)　義勇軍の南下をめぐる対立(192)　スターリンは再び彭徳懐を支持(194)　誰が戦時の鉄道を管轄するか(197)　金日成は三度押し切られた(202)　毛沢東は戦争の長期化を主張(205)　捕虜の扱いをめぐる相違(208)　中ソ朝三角関係の真相(212)

第三章　「チュチェ」の提唱——金日成の粛清と毛沢東の反発(一九五三—一九五六年)……215

第一節　社会主義陣営と戦後の再建……216

戦争中の中国による経済支援(216)　北京で予想外の大収穫(220)　中国の援助額はソ連・東欧を上回る(222)　義勇軍の現地支援(224)

第二節　金日成の党内粛清と「八月事件」……227

南方派が先に一掃される(227)　軍権を奪われた延安派(228)　モスクワ派の抵抗と左遷(232)　「チュチェ」思想の始まり(233)　朝鮮の内政と中ソ(235)　八月中央総会の抗

争(237)　ブレジネフの不満(240)　金日成批判の狼煙(243)　ソ連の豹変が反対派を葬る(247)　最後の闘いと中国亡命(249)　八月事件と中国(251)

第三節　中ソ共同の「内政干渉」……254

亡命者、中国に報告書提出(255)　ソ連共産党中央の決議(259)　ミコヤンと毛沢東の合意(262)　ソ中代表団、ピョンヤンに乗り込む(265)　異例の中央総会再招集(269)　金日成の引き延ばし策(272)　捲土重来と再度の逃亡劇(275)　朝鮮の国連提案に中国は強く反発(278)　金日成が「裏切り者」呼ばわりされた(281)

訳　注(55)

原　注(1)

《下巻目次》

第四章　懐柔政策
——毛沢東、金日成を全力で支持（一九五六—一九六〇年）

第一節　ポーランド・ハンガリー事件に誘発された朝鮮に対する新しい方針
「兄弟党」関係のジレンマ　周恩来とフルシチョフの会談　九月総会以後の「小康」　外部情勢を国内闘争に利用　中国自身の「大国主義」　中国の反右派闘争が転機　毛沢東の方針転換

第二節　中国義勇軍の完全撤収
毛沢東が金日成に謝罪　義勇軍撤収に込めた計算　翻弄された亡命幹部の運命　中朝ソの外交連携プレー　義勇軍の撤収過程とその影響　ライバルの一掃　金日成の完全勝利

第三節　「大躍進」に引っ張られた「千里馬」
中国の「大躍進」に見習え　金日成の中国視察　毛沢東の「千里馬」支援　瓜二つの自己吹聴　友好関係の一回目のピーク

第五章　中ソ分裂
——「恒久的」同盟条約の調印と住民の大挙越境（一九六〇—一九六一年）

第一節　中ソを競わせた同盟条約
杭州の毛沢東・金日成会談　フルシチョフの奥の手　中ソを天秤にかける　ソ朝条約交渉の動き　喬暁光大使の打診　恒久的義務を負った中朝同盟条約

第二節　北朝鮮を引き留めるのに苦心する毛沢東
ソ朝関係は再び緊張へ　やせ我慢の対朝鮮経済支援　理解に苦しむ「忍従」　喬大使の突然の更迭

第三節　朝鮮族住民の大量脱走と対応
東北朝鮮族政策の変遷　二つの「祖国」　国境住民の流動の歴史　北朝鮮の海外居留民に対する帰国工作　中国朝鮮族の帰国移送　不法越境者の急増　東北地区への深刻な後遺症　密入国者の中国帰還の波　「東北で徴兵すればよい」と語る毛沢東

第六章　漁夫の利
——長白山の「割譲」と蟻地獄の経済援助（一九六二—一九六五年）

第一節　中朝国境の歴史的変遷
中朝国境紛争の由来　国境問題に関する新中国の模索　国務院国境委員会の成立　中朝国境に対する事前調査　中国側の楽観的な見通し

第二節　毛沢東、北朝鮮の領土要求に大幅譲歩
急遽浮上した国境条約の交渉　今日も秘匿される条約内容　長白山最高峰と天池の割譲　白頭山にこだわった政治的理由　投影された毛沢東の「天朝」思想

第三節　金日成の中国「傾斜」とその限界

東北は金日成の「統一的指揮」に委ねられた　ピョンヤンに招待された東北の幹部　亡命幹部、奈落の底へ　対北朝鮮の援助は政治優先　「修正主義」批判に共同歩調　駄々っ子のねだり、すべて叶える　「三つのリンゴ」の譬え　フルシチョフの失脚で情勢が一変　爛熟した実用主義的外交手腕

第七章　同床異夢
——「文化大革命」の試練（一九六六—一九七六年）

第一節　革命的友情は「元の鞘に収まる」
「世界革命」の高揚感　中国外交部の大混乱　ソ連をめぐる対立が表面化　「中国中心」論の批判と「文革」風刺　国境での「拡声器放送合戦」　不安定な政治経済関係　天安門に姿を現した崔庸健　十二年ぶりの周恩来訪朝　金日成の極秘訪中

第二節　米中和解の衝撃
国際情勢の激変と四人の元帥の提言　周恩来、ピョンヤンとハノイに飛ぶ　「敗北者の細道」　米中交渉における朝鮮問題　七・四「共同声明」と中国　国連での米中協調　朝鮮統一復興委員会の解散　北朝鮮の過度な自信と挫折

第三節　「世界革命」の旗手交代
「三つの世界」理論の裏事情　「革命の輸出」をやめた中国　再度、北朝鮮に大規模な援助　外交方針の対立は修復不能に　毛沢東に代わって「革命を輸出」　好対照をなす二人の革命指導者　金日成訪中と「祖国統一」への新しい意欲　最後の毛沢東・金日成会談　一つの時代の終わり

エピローグ　「改革開放」と中朝関係の仕切り直し

結び　中朝関係の歴史的位置づけ
五つの歴史的段階　「天朝」意識と革命理念の奇妙な結合　「血の同盟」の真実　現代国家間関係として再スタートを

あとがき
訳者あとがき
中朝間の条約・協定一覧
中朝関係略年表
参考文献
訳　注
原　注
人名索引

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com